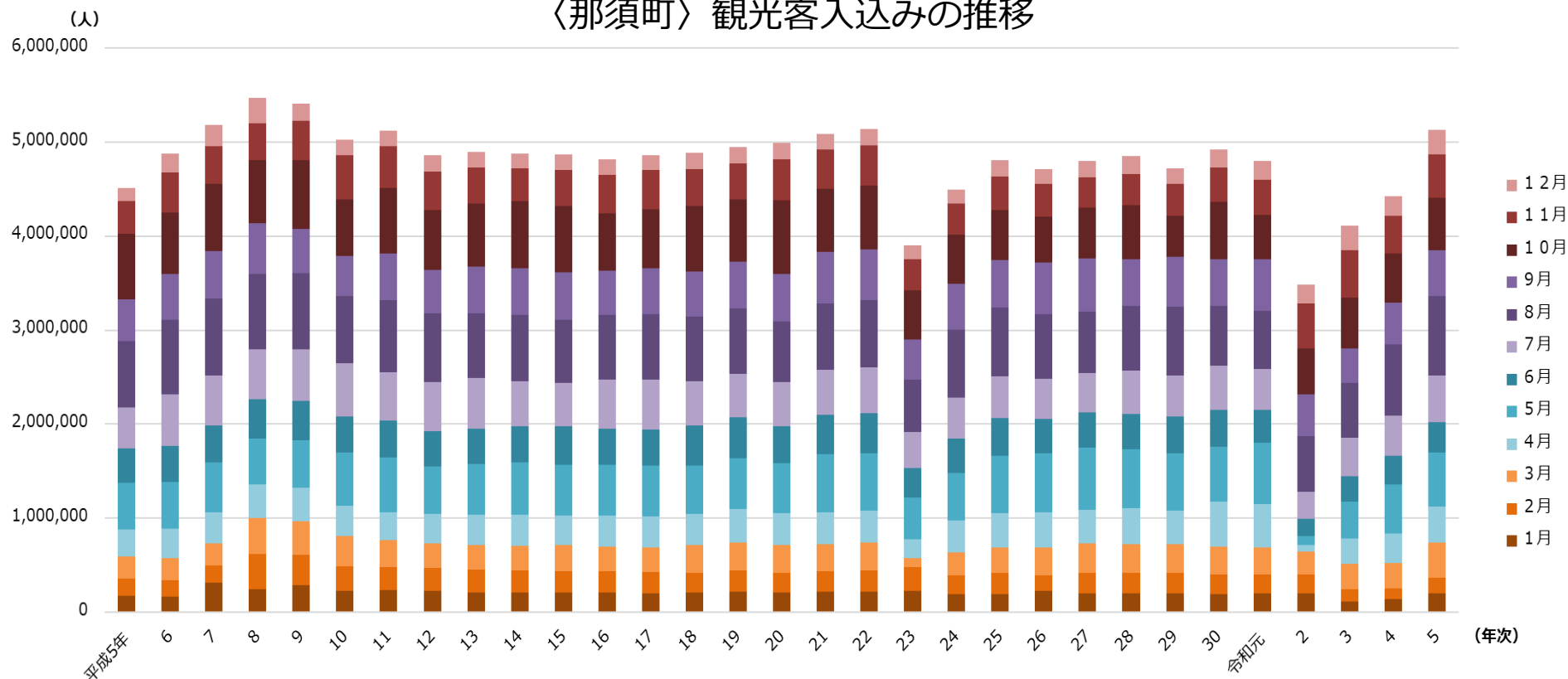


〈那須町〉観光客入込みの推移

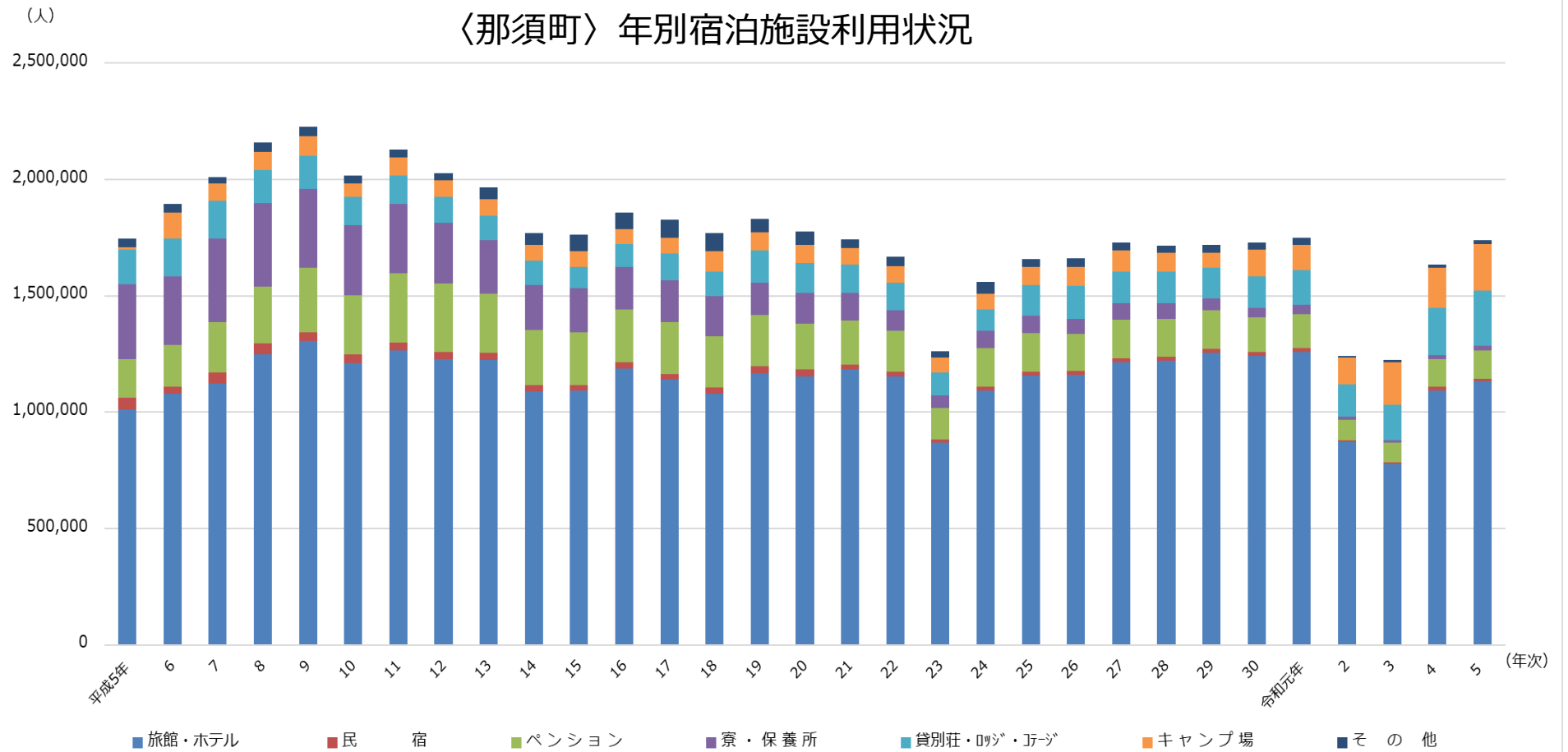


令和5年は、「東日本大震災」が発生した平成23年以前の観光客入込みの推計まで回復した。コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、人が動き出したことが一番の要因だと考えられる。

GWは後半に5連休があり、5月1日、2日に休暇を取ると最大9連休となる日並びの良さ、それに加え、4月30日、5月7日を除き天候に恵まれた。令和5年は台風の発生数が平年より少ない17個（平均値25.1個）となり、1951年（昭和26年）の気象庁の発表する統計開始以降3番目の少なさであった。日本への接近9個、上陸1個となっており、台風の影響が少なかった。秋行楽シーズンについては、雨が多かったため屋外のレジャー施設は前年比より減少傾向であったが、屋内レジャー施設の入込数は増加となった。また令和5年は紅葉シーズンが10日程度遅くなったこともあり、入込み客数への影響が懸念されたが増加となった。紅葉が最盛期を迎えた10月12～18日については峠の茶屋駐車場及び那須ロープウェイ駐車場は天気の良い日には連日満車となっており賑わいを見せていた。

新しい観光スポットも新設され、賑わいをみせている。そのことが増加の要因となっていると考えられる。

〈那須町〉 年別宿泊施設利用状況

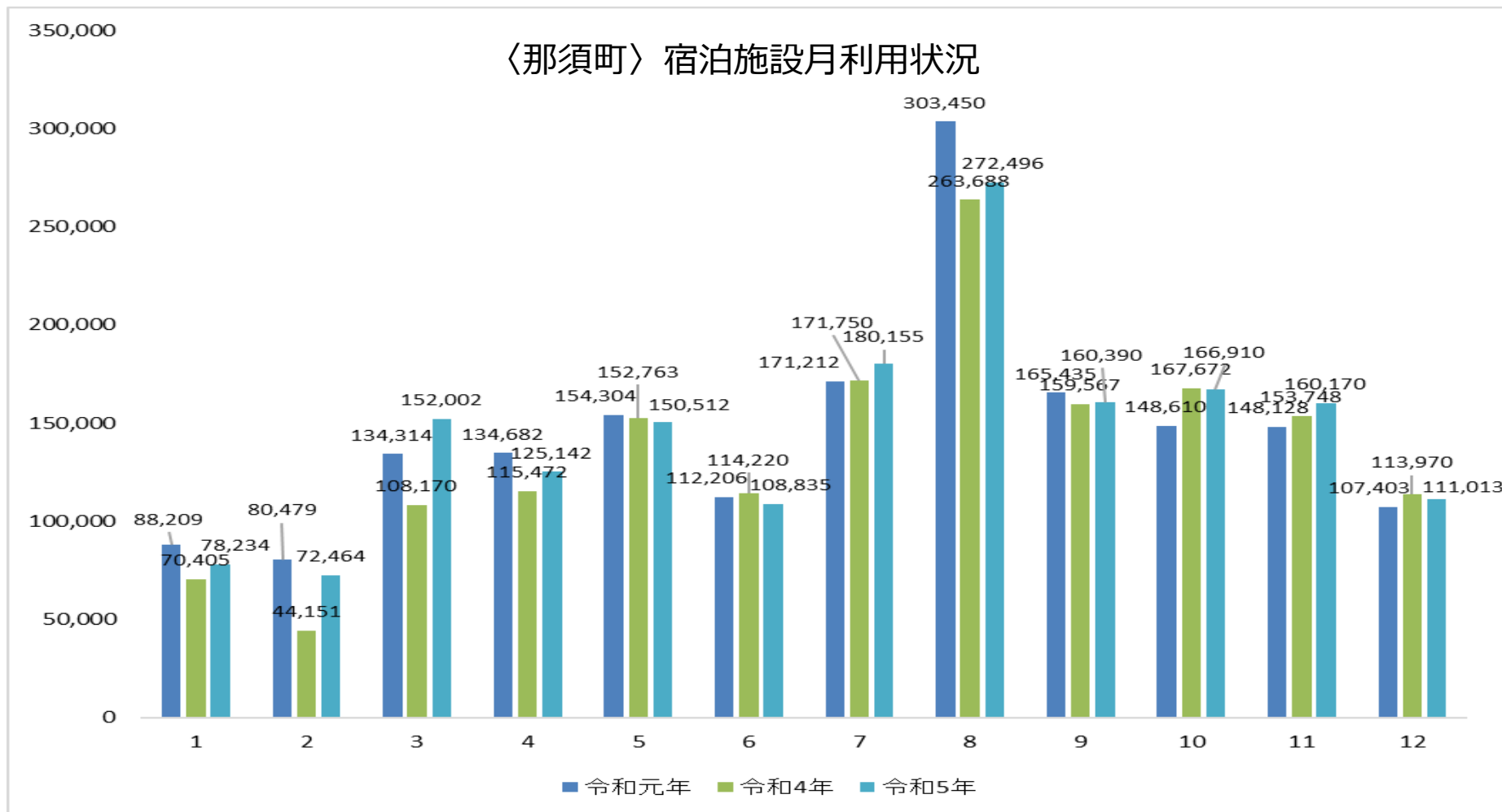


令和5年は、全体的な年別宿泊施設利用状況のみをみると「東日本大震災」が発生した平成23年以前の観光客入込みの推計まで回復した。コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、人が動き出したことが一番の要因だと考えられる。

栃木県内への旅行者が対象となる、いちご一会とちぎ旅（全国旅行支援）が2022年（令和4年）10月11日～2023年6月30日（2022年12月28日～2023年1月9日、4月29日～5月7日の期間の旅行は割引対象外）が実施され、那須町に宿泊する方が多くいたことが考えられる。また、町の施策として、「オンライン観光誘客事業」を実施しオンライン上でのプロモーションを行ったことも、要因の1つだと考えられる。

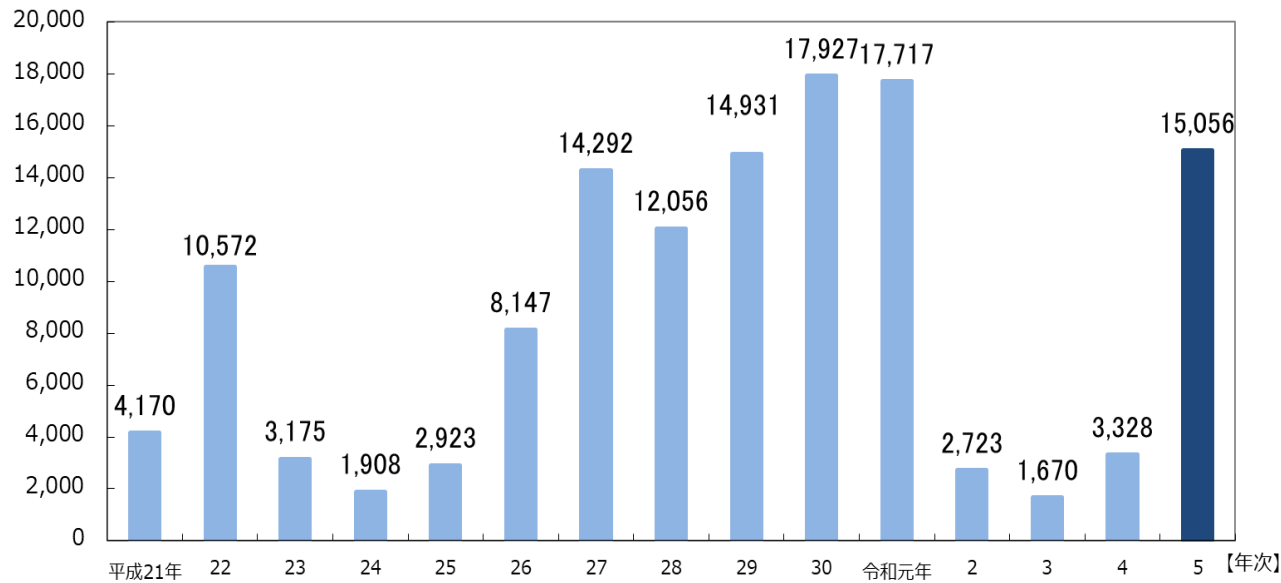
詳細をみると「貸別荘・コテージ」「キャンプ場」については、大幅に宿泊者数が増加しており、過去最高となっている。ほかの宿泊施設別にみると、コロナ禍以前までの観光客入込みの推計までは回復していない。

〈那須町〉 宿泊施設月利用状況



令和5年1～3月は令和4年と比較すると宿泊者数の差が大きいですが、これは令和4年1月27日から3月21日までまん延防止重点措置がとられたことで令和4年の宿泊者数が減少していることが要因だと考えられ、令和4年1～3月と令和5年1～3月で比較すると135.91%となっている。同時期の令和元年の宿泊者数と比較すると99.9%となっている。令和5年1月～6月30日まで全国旅行支援が実施されたことも、要因のひとつだと考えられる。令和元年10月から12月が台風の影響で宿泊者数が減少し、同時期の令和5年と比較すると99.34%となり、令和5年のほうが宿泊者数は多い。令和4年と5年の1年間で比較すると、106.28%となっており102,747人の増となっている。令和元年と5年で比較すると、6,896人減で99.42%となっている。

〈那須町〉外国人宿泊数の推移（平成21年～令和5年）



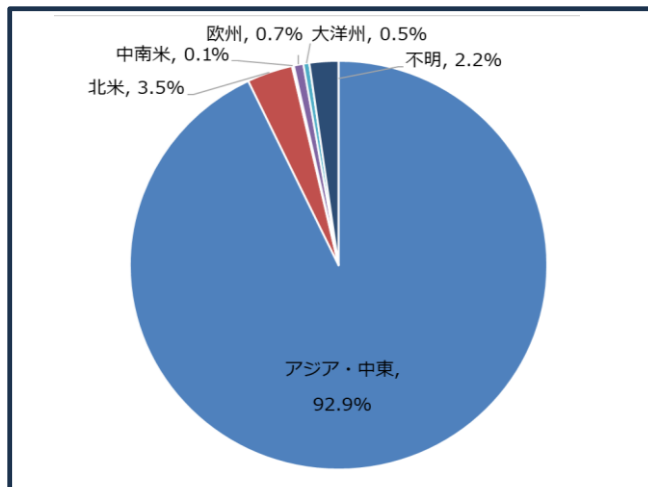
全国的に訪日者数が前年より増加しており、那須町もそれに準じて増加したことが考えられる。コロナ禍以前の水準までは回復していないが、増加傾向ではある。

地域別割合で見ると、「アジア・中東」が最も多く全体の92.9%となっている。「アジア・中東」の中でも、「台湾」が最も多く宿泊している。次に「欧州」が多く3.5%となっている。

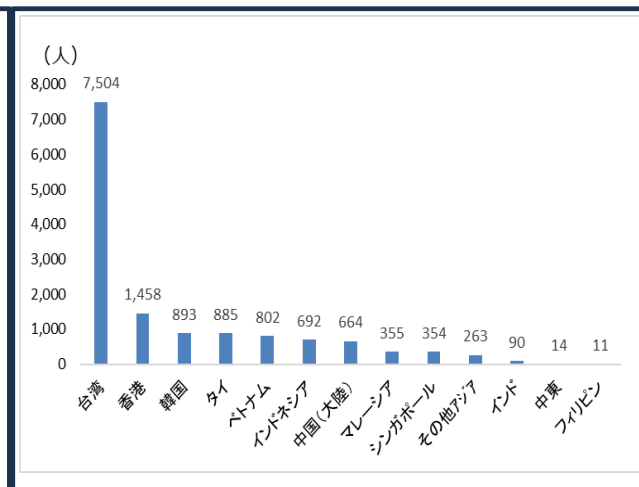
月別で見ると、11月が最も多く、10月、4月と続いている。これは国慶節などの休暇や、紅葉や桜などの日本の四季を楽しむためと考えられる。

また、台湾旅行博やインバウンド商談会へ出席し、プロモーションしたことも要因の一つだと考えられる。

令和5年 外国人宿泊数（地域別割合）



令和5年 外国人宿泊数（アジア・中東）



令和5年 外国人宿泊数（月別）

